

## 創刊にあたって

北海道立アイヌ民族文化研究センターは、アイヌ文化に関する初めての専門的な調査研究機関として、主として言語、芸能、歴史など無形文化を研究対象に平成6年6月にその一歩を印しました。そして約20年の歴史を刻み、平成27年4月に北海道開拓記念館と統合し、北海道博物館の一翼として新たなスタートをきりました。

この統合により北海道博物館アイヌ民族文化研究センターは、民具や伝統的生活技術といった有形文化も研究対象に加え、文字通り「総合的なアイヌ文化の調査研究機関」へと踏み出したわけです。私たちの基本的な役割は、①アイヌ文化の総合的、体系的な研究をすすめる研究機関としての役割、②アイヌ文化に関する資料および研究情報を一元的に収集し、整理し、提供する情報センターとしての役割、③アイヌ文化の学習、伝承や理解の促進に寄与するために、調査研究や資料収集・整理の成果を提供する役割、の3つと考えています。

また、「調査研究」「資料・情報の収集・整備」「資料・情報および研究成果の公開・発信」「普及」という4つの柱に、「展示」という活動が加わりました。これまでの蓄積をベースに「展示」による発信力の向上を強みにして、活動の質と量をさらに高めていきたいと思えます。

このたび、センターの事業の一環である研究紀要を発刊するはこびとなりました。旧センター時代に第21号まで発行していますが、統合という節目を経て、あらためて「第1号」として発刊いたします。それぞれの専門分野に関し収集した資料や情報をもとに考察した成果を論文、調査報告、資料報告としてまとめたものです。こうした着実な研究の蓄積がセンターの役割を果たしていくことに直結し、展示や普及事業の充実も可能にすると考えます。

最後になりましたが、このたびの統合、その後の博物館運営にご尽力いただきましたみなさまに心から感謝申し上げますとともに、今後さらなるご支援をお願い申し上げます。そして、私たちの活動をさらに充実したものにすることをあらためて申し上げ、研究紀要発刊のご挨拶といたします。

平成28年3月

北海道博物館  
アイヌ民族文化担当副館長  
中村 亘